

◆◆◆音我苦◆◆◆

■教師としてののはじめて授業。忘れもしません。音楽でした。
昭和63年9月。4年生の教室。9月がはじめての授業？と思われますね。
その学校は当時開校まもなく。爆発的に児童数が増えていました。
夏休み明け。すごい数の転入生が来ることに。
それで9月なのに、それまで二学級だったところを三学級に増やすことになったのです。
教師が必要になって、就職浪人していた私に声がかかったのです。

■赴任当日。
事務の方から「事務手続きを」と言われていたので、
多少の緊張はありましたが少し気楽に玄関をくぐりました。
校長先生に挨拶。事務手続き終了。さあ失礼しようか、と思っているときに
先生が入ってこられました。後に4年生の学年主任と分かりましたがその方が、
「今から子どもたちに紹介します。ホールに一緒に来てください」「はっ？」
ホールにはすでに100名あまりの4年生の子ども達が座って
私を興味津々のまなざしでじっと見つめています。
「では2組、廣渡先生。よろしくお願いします」「はっ??」
何が起きているのかよく分からないままに、私は4年2組の教室に入りました。

■おそらく2時間目か3時間目だった、と思います。
教壇の前に立ってたぶん私は自己紹介をした、のだと思います。
「じゃあ…授業しようか…」「はい！」
「何の勉強ですかね…」「音楽です!!」
「音楽…。教科書は…どこかな…」「ここにあります！」
「今日はどこからするのかな?」「〇ページです！」
こんな感じで私のはじめての授業が始まりました。
授業中の記憶はほとんどありません。覚えているのは、何回も何回もふりかえって
黒板上の時計をみていたことです。あんなに長く感じた45分間はなかったです。
何をどうすれば分からない。とにかくひたすら歌わせていた記憶があります。
へたなオルガン伴奏を片手でしながら。熱い汗と冷や汗を交互にかきながら。
以来、私にとって音楽の授業は「音我苦(おんがく)」になったのでした…。



■来週、22日午後は音楽の研究大会。
ここ南風小学校を会場に、糸島市内はもちろん、近隣市町の学校からも先生方に参加
いただき、子どもが音を楽しむためにどうするかを学び合う時間をつくります。
その日、音楽の授業を公開していただく5年生の柴田先生、3年生の中村先生の教室から、
音楽室から聴こえてくる美しい歌声と笑顔の子どもたちのようすをみながら、
私は私が担任した子どもたちに申し訳なさを改めて感じています…。

